

## ▼モディオダール錠 [内]

- 【重要度】 【一般製剤名】 モダフィニル (U) Modafinil 【分類】 抗ナルコレプシー関連薬
- 【単位】 ▼100mg/錠
- 【常用量】 1回200mg, 1日1回 [最大300mg]
- 【用法】 1日1回, 朝服用 [覚醒作用があるので, 夕刻以降の服用は避ける]
- 【透析患者への投与方法】 減量の必要はないが慎重投与 (1)
- 【保存期 CKD 患者への投与方法】 減量の必要はないが慎重投与 (1) 【その他の報告】 腎不全患者では代謝物の濃度が上昇 (1) Cr 20mL/min 未満では未変化体の PK に影響はないが, 代謝物の曝露量が9倍に上昇 (U)
- 【特徴】 アドラフィニルの活性を向上させた化合物。ドパミン神経系への作用は弱く, ヒスタミン神経系を介して大脳皮質を賦活化。ナルコレプシーに伴う日中の過度の眠気に対して効果がある。アンフェタミンやメチルフェニデートに比べて覚醒以外の反応 (不安や循環動態に対する影響) が少ない。
- 【主な副作用・毒性】 SJS・TEN, ショック・アナフィラキシー, 多形紅斑, 頭痛, 悪心, 神経過敏, 口渇, 不安, 下痢, 不眠, 動機など
- 【吸収】 食事は吸収速度を遅らせる (U)
- 【F】 尿中回収率から 80%以上と思われる (5) F は不明 (U)
- 【tmax】 2~3hr (1) 2~4hr (U)
- 【代謝】 代謝は加水分解による脱アミド化, S 酸化, 水酸化及びβグルクロン酸抱合 (1,U) 加水分解による代謝が主で, CYP による酸化的代謝の寄与は比較的小さい (Robertson P Jr, and Hellriegel ET: Clin Pharmacokinetics 42:123-137, 2003) 一部が CYP3A4 で代謝される (1) CYP2C9, 2C19 を阻害し, CYP1A2, 2B6, 3A4 を誘導する (1)
- 【排泄】 尿中未変化体排泄率 10%未満 (U) 主に代謝物として, 尿中回収率 80% [11 日まで] (1) 尿中回収物は主に代謝物アシッド体で尿中未変化体排泄率 10%未満 (1) 投与量の 35~60%がアシッド体として尿中に回収 (Wong YN, et al: J Clin Pharmacol 39:281-288, 1999) 線形に消失 (1)
- 【CL】 50mL/min (Wong YN, et al: J Clin Pharmacol 39:30-40, 1999) 腎クリアランスは全身クリアランスの 10% (1)
- 【t1/2】 10~15hr (1) 15hr (Wong YN, et al: J Clin Pharmacol 39:30-40, 1999) 長い半減期は1体による (Robertson P Jr, and Hellriegel ET: Clin Pharmacokinetics 42:123-137, 2003)
- 【蛋白結合率】 60% [アルブミンと結合] (1,U)
- 【Vd/F】 0.76L/kg (1) 0.9L/kg (U) 0.8L/kg (Wong YN, et al: J Clin Pharmacol 39:30-40, 1999)
- 【MW】 273.35
- 【透析性】 ある程度除去されると思われる (5)
- 【O/W 係数】 15.16 [1-オクタノール/水系, pH6.8] (1)
- 【相互作用】 CYP3A4 や 2C9 に関連する相互作用に注意 (1) 昇圧剤や MAO 阻害剤の作用増強 (1)
- 【備考】 閉塞性睡眠時無呼吸症候群の患者に投与する場合には, CPAP 等の 3 か月以上の適用でも日中の過度の眠気が残存する例に対して, 眠気の原因となる他の疾患との鑑別診断を行った上で投与する。ただし, 日中の過度の眠気以外の閉塞性睡眠時無呼吸症候群の症状及び気道閉塞に対する効果は認められていない
- 【更新日】 20210330

※正確な情報を掲載するように努力していますが, その正確性, 完全性, 適切性についていかなる責任も負わず, いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし, それらを利用した結果, 直接または間接的に生じた一切の問題について, 当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は, 日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。